



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

#### 4. 「おかやま夢白桃」の樹勢を適正に維持するための評価指標

[要約]

「おかやま夢白桃」は、他の品種に比べて樹勢が低下しやすいため、樹の栄養診断をもとに樹勢を適正に維持するための指標を作成した。特に、収穫期頃まで、新梢基部の葉に赤褐色の斑点が発生する樹は樹勢が低下しており、成熟が早期化しやすい。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 環境研究室、果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0532

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「おかやま夢白桃」は通常、「清水白桃」の7日程度後に成熟するが、樹勢が低下した場合には成熟期が早まり、「清水白桃」の成熟期に接近することが問題となっている。そこで、「おかやま夢白桃」の樹勢を適正に維持するため、葉や樹の栄養診断項目についての評価指標を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 樹勢が低下した「おかやま夢白桃」では、満開30日後から収穫期にかけて、新梢基部の葉（満開30日後では通称「ぜに葉」と呼ばれる小葉及びその近くの葉位の葉）に赤褐色の斑点が認められた。特に、収穫期頃まで認められる樹では成熟が早期化した（図1）。
2. 樹勢が低下した「おかやま夢白桃」は、通常の樹に比べて葉中窒素含有率が低く、葉身長が短く、一葉重が軽い傾向にあるため（図2）、葉の栄養状態を示すこれらの項目を樹勢の指標とした。
3. 作成した葉の栄養診断指標は、満開120日後の葉身長が15cm、一葉重が0.8g、葉中窒素含有率が2.5%を基準とし（表1）、これを下回る場合は樹勢が弱く、成熟期が早期化する危険があるとした。なお、葉色は樹勢との関係が判然としないため、診断項目に用いなかった。
4. また、樹の栄養診断指標は、満開150日後の樹冠占有面積1㎡当たりの徒長枝が1本を基準とし（表1）、これを下回る場合は樹勢が低下していると判断した（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 調査した県内27圃場の施肥窒素量は、岡山県果樹栽培指針に示されている10a当たり5～8kgと比べて少なく、樹勢の低下を助長している可能性がある。
2. 指標を下回るような、樹勢が弱い「おかやま夢白桃」では夏季せん定を行わないほか、秋期の深耕など土壌改良を行い、適正な肥料分量を施用するなど、強勢化を図る必要があるが、強勢化の効果はすぐに現れにくいいため、複数年継続する必要がある。
3. 葉中の窒素含有率は、試料を風乾粉碎後、近赤外分光法により簡易に測定が可能である。



[具体的データ]



図1 樹勢が低下した「おかやま夢白桃」の葉に発生する赤褐色の斑点症状  
 左) ぜに葉（囲み部分、5月中旬） 右) 新梢基部葉（満開120日後）

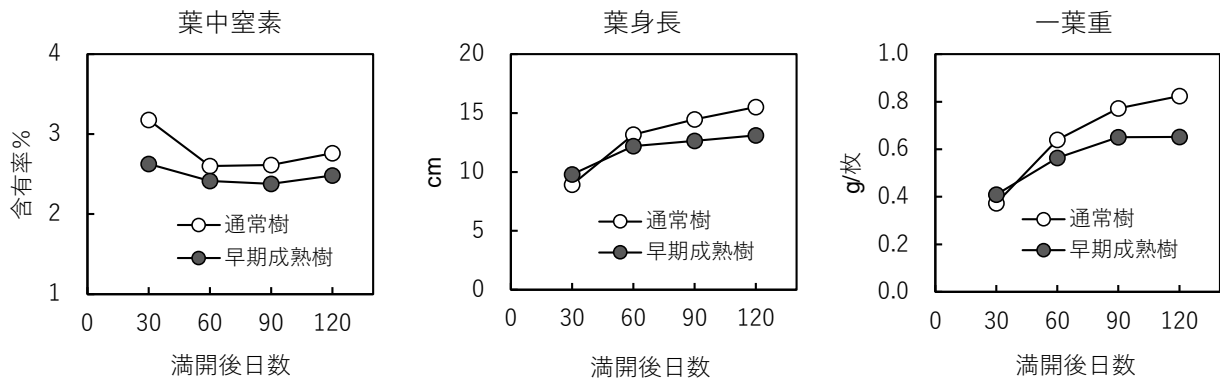


図2 「おかやま夢白桃」の成熟期の早期化と葉の栄養状態

表1 「おかやま夢白桃」の樹勢を適正に維持するための指標

項目	内容	判定時期	測定方法及び備考
葉の栄養診断			
窒素含有率	2.5 %以上	満開120日後	・ 中～長果枝の完全展開葉で 先端から6～7枚目の葉20枚
葉身長	15 cm以上	〃	程度を採取して計測する
一葉重（生重）	0.8 g以上	〃	・ 葉中窒素は近赤外分光計で測定可能
樹の栄養診断			
樹冠占有面積			・ 樹冠占有面積当たりの
1 m <sup>2</sup> 当たりの	1本以上	満開150日後	徒長枝(60cm以上)の本数を
徒長枝発生本数			計測する

[その他]

研究課題名：樹勢の客観的評価に基づく「おかやま夢白桃」の安定生産技術の確立

予算区分・研究期間：県単・平29～令3年度

研究担当者：大家理哉、石井恵、樋野友之、河村美菜子、佐々木郁哉、荒木有朋

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[平23 \(17-18\)](#)、[令2 \(17-18\)](#)